

一五 多賀谷重経書状（那須烏山市所蔵「平野家文書」）

多賀谷重経、烏山御館に書状を送り、塩谷の地における那須・宇都宮
氏間の抗争に危惧している旨報じる。

依無題目、遙々不申達候、本意之外令存候、然者塩谷境目菟角付而、向彼
地御出馬之由及承候、就之自宇都宮も被及御防戦之間、一昨日者互ニ被打
向之段及承候、乍恐無御心元奉存候間、使者以申上候、此段可然御披露任
入候、恐々謹言、

多賀谷

（天正十三年）
三月廿八日

重経（花押）

烏山

（那須資晴）

御館 □ □

【読み下し文】

題目なきにより、遙々申し達せず候き。本意の外に存せしめ候。然らば
塩谷の境目菟角とかくに付いて、彼の地に向け御出馬の由承り及び候き。之に
就き宇都宮よりも御防戦に及ぶるの間、一昨日は互いに打ち向かわる
るの段承り及び候き。恐れながら御心元なく存じ奉り候つるの間、使者
を以って申し上げ候き。此の段然るべく御披露任せ入り候。恐々謹言。